

一連載 地図のお話— No. 176



「記念物めぐり—茨城県版—」(第5回)
—国指定 史跡「台渡里官衙遺跡群(台渡里官衙遺跡・台渡里廃寺跡)—
日本ウオーキング協会 専門講師 堀野 正勝

記念物巡りの第5回は、水戸市に所在する史跡等を巡る2回目です。水戸市には、国指定史跡の「台渡里官衙遺跡群」の他、国指定天然記念物「白幡山八幡宮のオハツキイチョウ」など、学術上大変貴重なものがあります。

(国指定史跡「台渡里官衙遺跡群(台渡里官衙遺跡・台渡里廃寺跡)」)

平成 17(2005)年 7月 14日 指定、*長者山地区:平成 23(2011)年 9月 21日追加 指定

* 県指定史跡:昭和 20(1945)年 7月 16日 指定

台渡里廃寺跡は、那珂川右岸の標高 30m の台地上の水戸市渡里町に所在する 2つの古代寺院跡で、それぞれ北側が観音堂山地区、南側が南方地区と呼ばれ、わずか 150m 程の距離をおいて 2つの寺院が造営されていました。

観音堂山地区の寺院跡の焼失痕及び出土遺物等から、観音堂山地区の寺院跡が白鳳時代に造営されたものの火災により喪失し、その後南方地区の寺院跡が平安時代に立て替えられたものと考えられています。

観音堂山地区の寺院跡では、推定範囲東西 126m、南北 156m の寺院地内から講堂跡、金堂跡、塔跡、中門跡、経堂跡あるいは鐘楼跡に想定できる礎石建物跡が 6棟確認され、7世紀後半から 7世紀末に造営されたと考えられます。

また、礎石建物の造営と並行して、東西 90m、南北 58m にもわたる大規模な整地事業を実施していること及び礎石建物には 3期の変遷があったことが確認されています。9世紀後半には火災により廃絶したと考えられています。

(国指定天然記念物「白幡山八幡宮のオハツキイチョウ」) 昭和 4(1929)年 4月 2日 指定

白幡山八幡宮のイチョウは、樹齢約 700年、高さ約 35m、最大径約 6m の雌株で、種子が葉の上に見える大変貴重な種で、オハツキイチョウと呼ばれています。特に樹勢が雄大な点では、同種類の天然記念物の中でも極めて優れており、学術上においても非常に有益のものです。

しかし、銀杏(ぎんなん)の付く葉は非常に少なく、全体の約 1割で、樹齢は 400年とも 600年ともいわれています。八幡宮の創立が宝永4(1707)年で、それ以前は寺院でしたので、その時には既に大木として存在していたものと言われています。

*参考 (国指定重要文化財 建造物「八幡宮本殿」) 昭和 29(1954)年 9月 17日 指定

八幡宮本殿は、水戸城主となった佐竹氏の守護神の社殿として、慶長 3(1598)年に建立されたことが羽目板裏の墨書から推定されます。構造は入母屋造り、こけら葺、桁行 3間、梁間 2間、向拝 3間を持ち、内部は内陣と外陣とに分かれ、内陣は 3室になっています。

建造物の組物や彫刻などに桃山時代の時代色や地方色を現代に伝えています。

(県指定史跡「笠原水道」) 昭和 13(1938)年 3月 11日 指定 * 付図及び写真無し

わが国で 18番目に古いと言われる笠原水道は、寛文 2(1662)年第二代藩主光圀(義公)が、下総佐倉の手賀保秀に命じて作らせ、翌年完成したものです。

当時、下市は、商業都市として発展するのに伴い、飲料水を得るのに苦慮していました。そこで、清らかな水が沢山湧き出る笠原不動を水源地として、総延長 7kmに及ぶ水路を敷設したものです。

岩樋(導水管)は現在も地下に残るなど旧態を良くとどめており、わが国における代表的な近世水道遺構の一つと言えます。



台渡里廃寺跡(南方地区)



台渡里八幡神社(観音堂山地区)



八幡宮本殿



白幡山八幡宮のオハツキイチョウ

